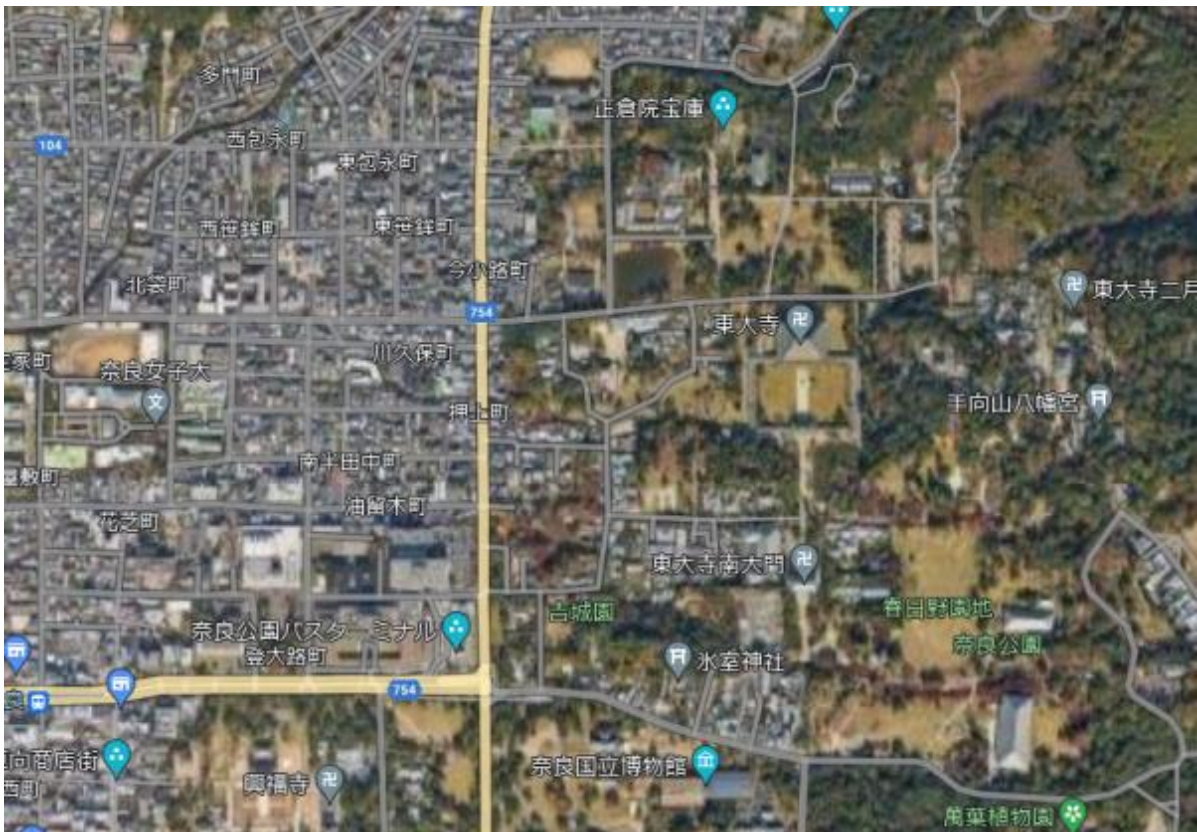


石仏あれこれ

シリーズA 石仏を訪ねる

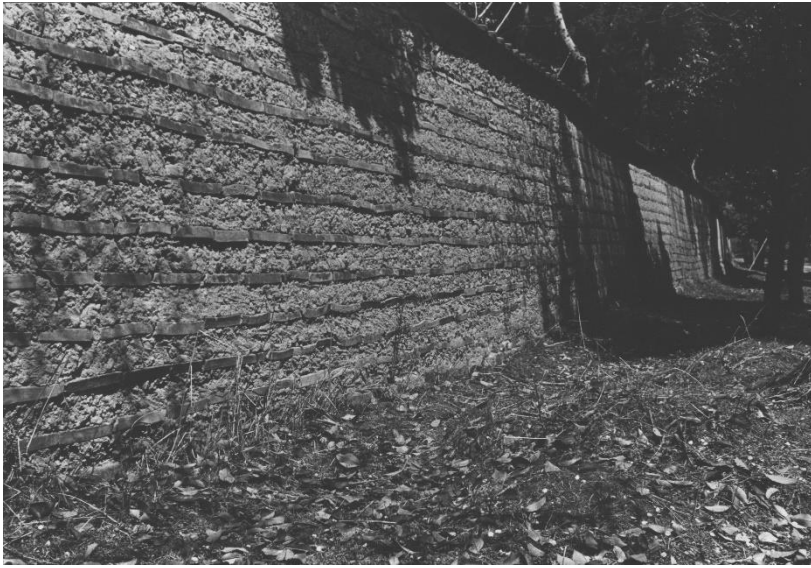
A8 東大寺・塔頭 1977

森隆一



奈良女子大学から東大寺 (Google Map)

A8. 東大寺・塔頭 1977



これら3枚の写真は
妙心寺の塔頭の1つと
その近くの土塀と
思って
きた。

下右の写真の門をくぐり
石段の途中で上と下の写真
を撮ったものである。





左の写真も、続いていることから、妙心寺のどこかと思って。Google Mapのストリート・ビューをかなり探してみたが、結局、見つけることは出来なかった。

A5章で、妙心寺で撮ったと思っていた墓標石仏群が伏見稻荷で撮ったと同じ勘違いであろう。

ベタ焼きの処理はなかなか進まないのので、上記写真に関する部分を先に処理してみた。その結果、土塀の写真と同じフィルムに次の写真が見つかった。



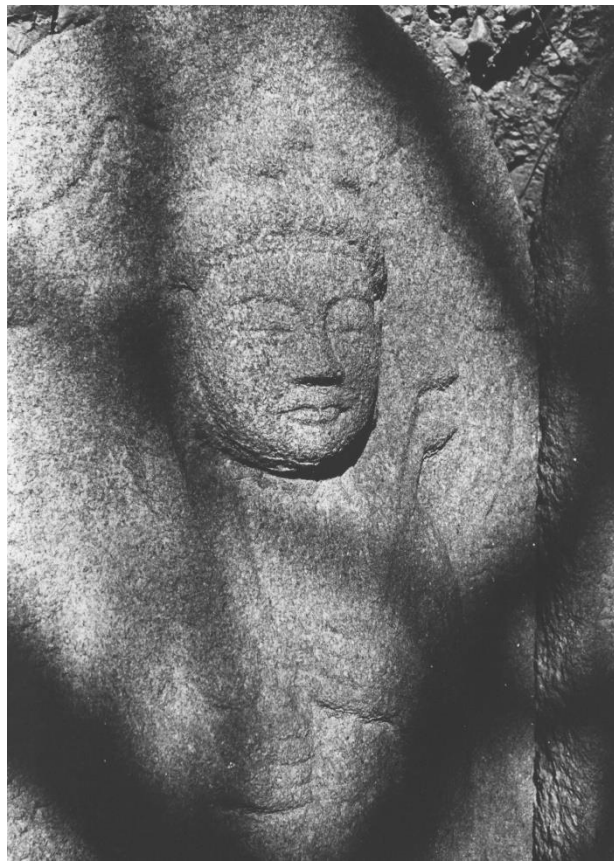
左の写真は奈良女子大学の正門から講堂と思われる建物を写したもので、右の写真は東大寺境内の大仏池と判定した。他の写真から、奈良女子大学でシンポジウムが開かれようで、その終わった後か、途中で抜け出したのかは覚えていない。地図では、奈良女子大学の北の道を東に歩くと、大仏池の南、大仏殿の北にでる。

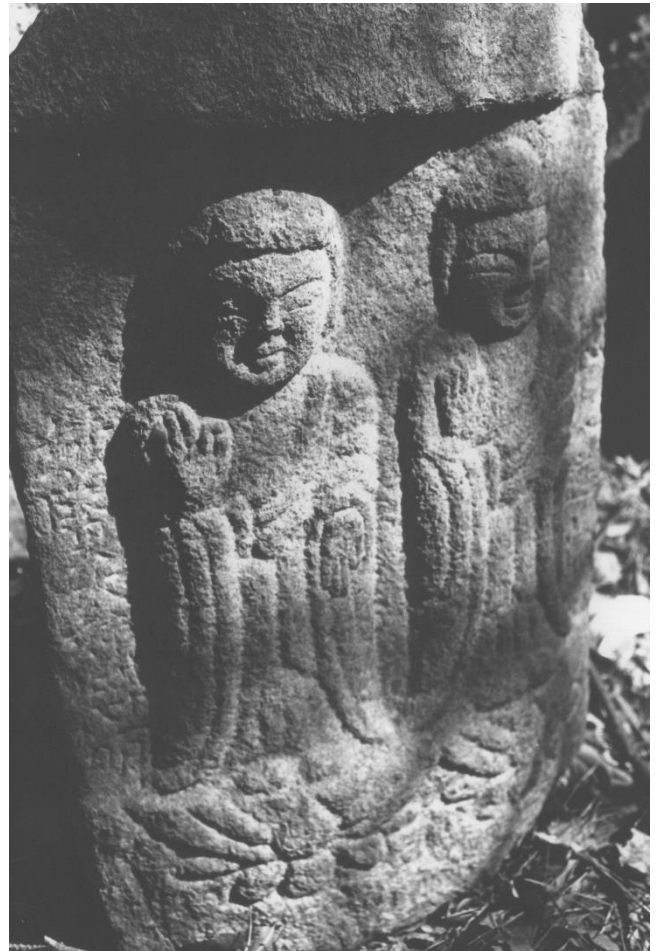
Google Map のストリート・ビューで探してみた。最近では、ストリート・ビューで見られる範囲が狭くなっている。以前は、東大寺の境内の主な道は見られたが、今は、大仏殿の裏辺りまでである。その他は、‘青○’に替わっている。国外で見ると、中国は全く見られない。それ以外では、ドイツが厳しく、大都市と観光地を除いて殆ど見ることが出来ない。

写真に関しては、土塀は Google Map で ‘二月堂裏参道’ をクリックして現れる写真の中に見られた。また、石燈籠の写真の奥の建物は、大仏殿の回廊の外側であることが確認できた。撮ったのは石段の写真の前である。

石段の写真の場所は特定できなかつた。石仏の写真はこれに続いているので、石段の上に見えるお堂の周辺にあった筈である。







あとがき

文中に書いたように、奈良女子大学で開かれたシンポジウム中に抜け出して、撮影したようだ。このシンポジウムに関しても全く記憶にない。A5で述べたように、石仏を写真の対象にしたが、いわゆる、路傍の石仏はまだ意識になかったようである。この後、大仏殿の正面のほうに廻ろうかと思ったが、聞く予定の講演に間に合わなくなり引き戻ったと記憶している。

この原稿を書いているうちに、表紙の Google Map で見られるように、東大寺の寺域の広さに気づかされた。比叡山延暦寺のような山岳寺院を除けば、最も広大な寺域をもつ寺院ではないかと思う。

奈良の旧市街は、表紙の地図で、南に同じ程度、西に半分程度であり、経路を適切に設定すれば、近鉄奈良駅から徒歩で周遊可能である。また、禅宗系の寺院の多い京都よりも、東北南部までを征服した大和朝廷の遺構である奈良の寺院のほうが概観は見栄えがする。石仏に目がいかなければ、奈良の古寺の写真をもっと撮っていたかもしれない。